

社会を明るくする運動

法務省が主唱する「社会を明るくする運動」。市内の小中高校生を対象に犯罪や非行のない地域社会づくりをテーマに作文を募集しました。広報さくち9月～11月で各部門の最優秀作文を紹介します。

小学生の部 最優秀作文

「家庭から広がる笑顔のバトン」

泗水小学校6年 倉本和花さん



皆さんにとって明るい社会とはどんな場所だろうか。犯罪や事件がないことだろうか。それとも、誰もが笑顔でいられることだろうか。

私は本当の「明るさ」はどこから生まれるのだろうかと考えていくうちに、社会という大きな場所を明るくするためのヒントが、実は私たちが毎日過ごしている家族との時間にあるのではないかと気付いた。

私は7人家族だ。我が家の良いところは、誰かが少しでも元気がなくなったり寂しそうにしていたりするとき、必ず他の誰かがそれに気付いて声を掛けたり、面白いことを言ったり笑わせたりしてくれるところだ。

ある日、私は習い事でうまくいかず、口数が減っていたときがあった。でも、家族の笑い声やみんな話している声を聞きながらご飯を食べていると、私の心にあったモヤモヤした気持ちがすうっと消えていく気がした。いつの間にか自分も笑っていて、心がとても軽くなっていった。

その時、私は思った。家族と笑い合う時間が、私にとって知らず知らずのうちに心を元気にする特別なエネルギーになっていったのだ。心が沈んで

いるときに、いつでも安心して帰れる場所があり、一緒に笑ってくれる家族がいるということは、ものすごく幸せで大切なことなのだと実感した。

もしも、安心して過ごせる場所がなく、独りぼっちで悩んでいる人がいたら、その人の気持ちはどんどん暗くなってしまう。そうすると元気がなくなったり、周りの人に優しくできなくなったりして、それがトラブルや悲しい事件につながってしまうのかもしれない。

逆に、家の中で「ここにいていいんだ」という安心感や笑顔になれる時間があれば、人は心に余裕を持つことができる。家族からもらった温かい気持ちがあるからこそ、学校や外の世界に出たときにも、友だちや周りの人に優しく接することができると思う。

社会をつくっているのは、私たち一人一人の人間だ。そして、その人間が集まる一番小さな社会が家庭である。だからこそ、それぞれの家庭が笑顔で満たされていることが、結果として学校を明るくし、地域を明るくし、最終的には社会全体を明るくすることにつながるのだと強く感じた。

家族の雰囲気良くする小さなこと

なら、今日からすぐに始められる。例えば、みんなでご飯を食べるときに「おいしいね」と言って食べること。誰かが話し掛けてくれたときに、しっかりと顔を見て返事すること。面白いことがあったら、みんなで見つめたり笑ったりすること。本当に、日常のささやかなことばかりだ。

笑顔を増やすだけで、家の中の空気がさらにパツと明るくなる。家族が笑顔になれば、その家族が次の日に仕事や学校に出かけたとき、周りの人にも優しい気持ちを広げていけるはずだ。これこそが、小学生の私から始められる「社会をより明るくする運動」の第一歩だと思う。

もうすぐ私は中学生になる。これからもっと広い社会に出ていくことになるが、どんなに忙しくなっても、自分の原点である「わが家の温かさ」を忘れないようにしたい。

社会を明るくするということは決して難しいことではない。私はこれからも、7人家族の何気ないにぎやかな時間を大切にしながら、そこで蓄えた心の元気を、学校の友達や地域の人たちへとつなげていけるような、思いやりのある人になりたい。

SDGs通信 vol.15

わたしたちにできること

市は令和3年5月に内閣府より「SDGs未来都市」に認定されました。持続可能な(住み続けられる)まちづくりに向けた市の取り組みや私たちができる身近なことについて、不定期で紹介します。

問い合わせ先 SDGs推進室 ☎0968(41)4488

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

SDGs未来都市 菊池市

身近なところでも、SDGsにつながる活動は広がっています。今回は、本市で地域の未来を切り開く、新たな挑戦に臨む2人を紹介します。

17年の海外経験を経て、菊池で挑む「農業×エンタメ」



農タメ、バク転部代表

宮 海彦さん



もともと社会課題に関心があり、海外協力隊としてパナマ共和国へ。貧富の差や教育格差、電気もガスも水道もない村での生活から、やみくもな発展ではなく「どう生きるのか」を考えることの大切さを強く感じました。その後もシルクドゥソンレイユでの世界公演などを通じて17年間海外で生活し、さまざまな国や人々を見てきました。

帰国後は、自転車で各地の農家を巡り日本を一周。「日本の自然や農業には世界に誇れる価値がある一方、その魅力が十分に生かされておらず、もったいない」と感じるようになりました。

現在は菊池を中心に、農業×エンターテインメント「農タメ」イベントを行い、農業に楽しく触れる機会や関係人口の創出に取り組んでいます。7・8月は、耕作放棄田を舞台にPK大会を開催し、多くの来場者に菊池の自然や農業の魅力を発信しました。

菊池の豊かな自然や人が持つ可能性を広げ、日本や世界にとって重要なまちとなるよう、今後も活動を続けていきます。



農タメでは子どもも大人もゲームを通して楽しく農業体験

高校生の「やってみたい」を地域の未来へ



(一社)ちいきのコト 代表

甲斐友彦さん



限 府の立町にある「tate.base」を拠点に、高校生と一緒に空家を地域のたまり場へ再生し、高校生の「やってみたい」を軸に、地域の子どもたちが楽しめる活動を行っています。きっかけは、新しい「菊池らしい にぎわい」を生み出そうと挑戦する、地域の皆さんとの出会いでした。

10月からは、高校生と地域の大人・企業・団体が協働する「きくちFUNs」を本格始動します。高校生の興味やアイデアに、地域の魅力・強み・課題を掛け合わせ、「やってみたい」を地域で実現する学びと実践です。

自分の好きなことやアイデアが誰かの役に立ち、地域を少しおもしろくできる。そんな経験を重ねることで、高校生が「自分も菊池の未来をつくる一人」だと感じ、次の世代へ受け継がれる、住み続けたい地域を育てることを目指しています。

ホームページでは企業・団体から、強みや困り事などを「マイボード」を通して募集しています。皆さんの声や思いが、高校生の「やってみたい」とつながり、新たな地域活動を生み出す「タネ」になります。



tate.base
Instagram



きくちFUNs
ホームページ



JA菊池の皆さんと高校生で鍋レシピを開発中